

— 広 告 —



安丸 暢彦 (やすまる のぶひこ)
金沢工業大学大学院工学研究科
電気電子工学専攻
博士前期課程二年
福井県立羽水高等学校出身

十回の学会発表を通して 自分の将来像を描けました。

親が自営業の場合、子供は働く姿を目にし、話を聞き、その仕事に興味を持つことも多い。安丸さんは、FA（ファクトリーオートメーション）のシステムエンジニアの父が自宅で制御盤やシステムを作るのを見ながら、自身もFAに携わりたいと思い、金沢工大の電気電子工学科に入学した。

「面倒見がいいこと、近いこと、

研究に力を入れていることがこの大学を選んだ理由です。授業の課題が多いので、みんなで学食や自習室に集まって、互いに教え合うことで理解が深まったと思います。そして、開発や設計の仕事をするには大学院に進学した方がいいと聞き、それを目標にしました。」
安丸さんは、小学校から高校までの野球で培った努力と粘りを、

学力向上でも発揮した。学部四年の時に三つの研究室合同の「微小エネルギーを利用した革新的な環境発電技術の創出」という国のプロジェクト研究に入ることになり、伊東健治教授の研究に出会う。

「電波から電力を取り出すという研究がおもしろくなって。これはバッテリーレス化やコードレス化につながり、実現できれば大きな社会の変化に。ぼくのテーマは『微弱電力レクテナの高感度化の研究』で、一MHzと九二〇MHzの二つの研究を並行し、それぞれ成果が出たので、学会発表も多くなりました。二回の国際学会を含めて、十二月で十回目の発表です。」

伊東研究室では三つのグループで無線電力伝送を扱っている。研究にかける時間と真剣な取り組みが成否を分けるという指導方針で、積極的な学会発表が推奨されている。そして安丸さんは二〇一九年にロンドンの国際学会で発表した

論文で、IEEE名古屋支部国際会議研究発表賞を受賞した。

「コロナでリモート発表が多くなりましたが、それまでは学会や共同研究でたくさんの研究者から話を聞くことができ、自分の将来像を考える貴重な機会でした。もちろん伊東先生からは、出身の三菱電機での経験も。研究でも就活でも、些細なことまで気にかけてくれましたね。最初は北陸での就職を考えていたんですけど、先生が大企業にしかできないこともあるから挑戦したらと。」

内定した三菱電機では、初志を貫きFA事業を行っている名古屋製作所に配属の予定である。より大きなFAシステム全体の最適化ができるような技術者を目指すという安丸さん。内定を一番よろこんだのは父親だったと微笑んだ。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七-1
電話番号(076)248-1100

KIT
キャンパス
レポート
文・出島二郎
マーケティングプランナー